

日産車体株式会社 個人投資家向け会社説明資料



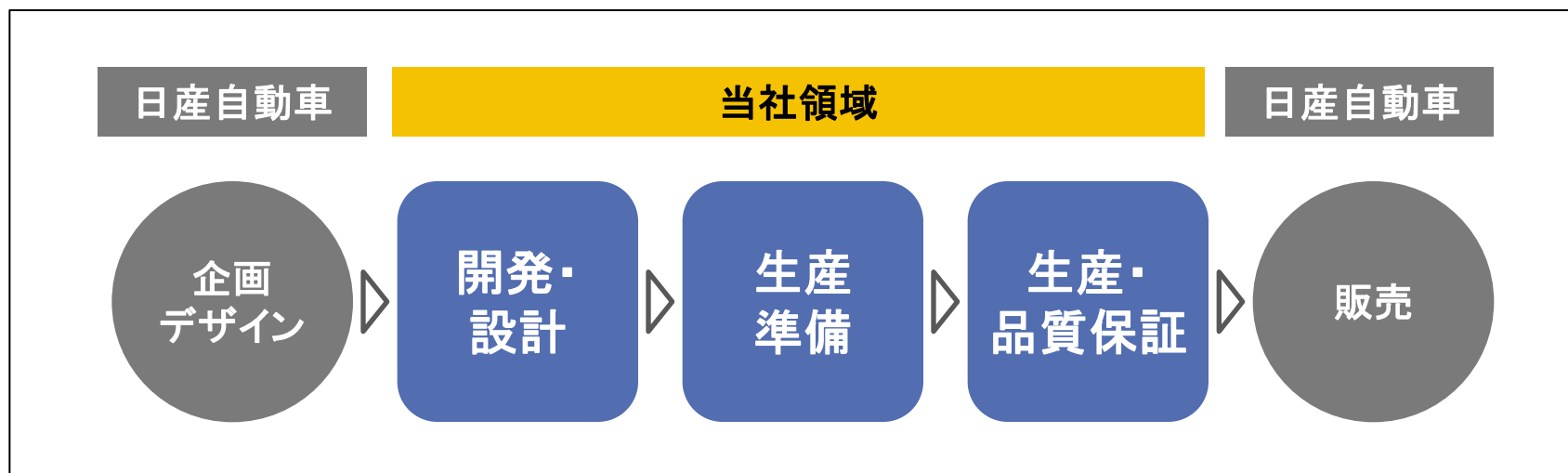
日本のモノづくりを世界へ

2019年5月

Outline



開発から生産までを担う完成車メーカーです



日産グループの中で「LCV・MPV」の分野を中心に、
グローバルに活躍する完成車メーカーとして事業を展開しています

LCV: Light Commercial Vehicleの略。小型商用車

MPV: Multi Purpose Vehicleの略。多目的乗用車という意味でミニバンやSUVの総称

日産車体グループ



湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点が主軸です

日産車体(株)

日産車体九州(株)

設立	1949年	2007年
事業内容	各種自動車の開発から 品質保証まで	自動車および その部分品の製造・販売
従業員数	1,797名	1,046名
生産拠点	神奈川県平塚市	福岡県苅田町

湘南工場



日産車体九州工場



(2019年3月31日現在)

グループ会社

日産車体マニファクチャリング株式会社

- ▶ 日産車体のプレス部品の製造

日産車体エンジニアリング株式会社

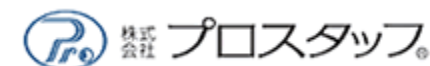
- ▶ 日産車体および日産車体九州の設備保全と物流



- ▶ マイクロバスとトラックの製造と特装車の架装

日産車体コンピュータサービス株式会社

- ▶ 情報システム構築、ネットワーク構築などのIT関連サービス



- ▶ 人材派遣から職業・人材紹介および各種アウトソーシング

沿革

2010年に日産車体九州の新工場が稼働開始。
2014年には湘南地区の再編を完了。

年 月	社 歴
2019年	4月1日 日産車体創業70周年
2014年	3月、新本社を第2地区に竣工・湘南再編完了
2012年	湘南工場第1地区での車両生産を終了、湘南工場第4地区での車両生産を第2地区へ集約、湘南工場の車両生産体制の再編を完了
2011年	当社が開発した「NV200」がニューヨーク市の次世代タクシーに選定
2010年	日産車体九州稼働開始
2007年	子会社「日産車体九州株式会社」設立／生産累計1,500万台達成
1992年	生産累計1,000万台達成
1969年	フェアレディZ生産開始
1951年	日産自動車(株)と提携
1949年	当社前身 新日国工業(株)設立



▶ 高級ブランド「インフィニティ」を生産
(日産車体九州)



▶ LCVでグローバル展開をリード



▶ ミニバンで現在の基礎を構築



▶ 日産車体のルーツを作ったフェアレディZ



グループのご紹介

主な生産車



湘南工場



NV200
NV200 バネット



NV150
AD



Infiniti QX80
インフィニティ QX80



PATROL
パトロール Y62



CIVILIAN
シビリアン



ATLAS
アトラス F24



ARMADA
アルマダ



NV200
NV200 タクシー



ARMADA
アルマダ



ELGRAND
エルグランド



PATROL
パトロール Y61



PATROL PICKUP
パトロール ピックアップ



NV350
CARAVAN
NV350 キャラバン

オートワークス京都

グループのご紹介

特長



完成車メーカーとしてのDNAを活かした、 多くの特長を持っています

■LCVを中心とした多車種少量生産の一大拠点(湘南工場)



▶モノコック車



▶フレーム車

■2010年に稼動開始した日産グループの国内“最新鋭工場” (日産車体九州)



▶ローラーヘミングによるエンジン
フードの生産



▶新塗装技術

■LCVで海外展開事業の基盤を強化



■グループ内での一貫生産により、 高品質な特別仕様車をスピーディに提供



2018年度 連結決算概況

2018年度の出来事と主な成果



【完成検査の不適切な取り扱いにつきまして】

2017年9月に判明した当社グループの車両製造工場での完成検査工程における不適切な取り扱いを受け、完成検査工程の改善と生産運営の安定化に向けて、生産工程のラインスピードを通常速度よりも落とした運営を行ってきた。ライン編成の見直し、工程の区画化等の再発防止策の実施を完了した。
2018年度は生産ラインのスピードも、当初計画での運営に復帰した。

[1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- 20年ぶりにパラメディックをフルモデルチェンジ。基準車両をエルグランド(E50)からNV350キャラバン(E26)とし、緊急活動における使い易さ、走行性能などを一新
- 中東を拠点とした活動に加えて、アフリカ・アセアン諸国への活動展開により、生産台数と売上を拡大

[2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 北米の権威ある自動車雑誌「コンシューマーレポート」がアルマーダを「推奨できる車」と高く評価
- 日産圏の国内市場 初期品質評価において、NV150ADが1位、NV200バネットが2位、F24アトラスが3位とTOP3を独占

[3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- プレス成型技術、および溶接シミュレーションによる次期型フレーム開発の最適化技術の検討
- LCV車への新たなITS技術の適用開発として制御方法の検討

2018年度 通期決算

決算サマリー



前期は完成検査問題の影響を受け、生産台数の減少/
生産性悪化などがあったため、当期は増収増益となった

売上台数

北米向け「アルマーダ」が減少したものの、中近東向け「パトロール(Y62)」や北米向け「インフィニティQX80」が増加したことなどにより、8.3%増の230千台

売上高

台数の増加などにより7.9%増の6,028億円

営業利益

材料市況の悪化はあったものの、増収及び生産性改善により、485.5%増の77億円

親会社株主に帰属
する当期純損失

営業利益の大幅な増加に加え、「リコール関連費用」43億円の減少などにより、78億円改善の55億円

設備投資

新商品、マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化及び改善などの投資を中心に約86億円

2018年度 通期決算

業績ハイライト

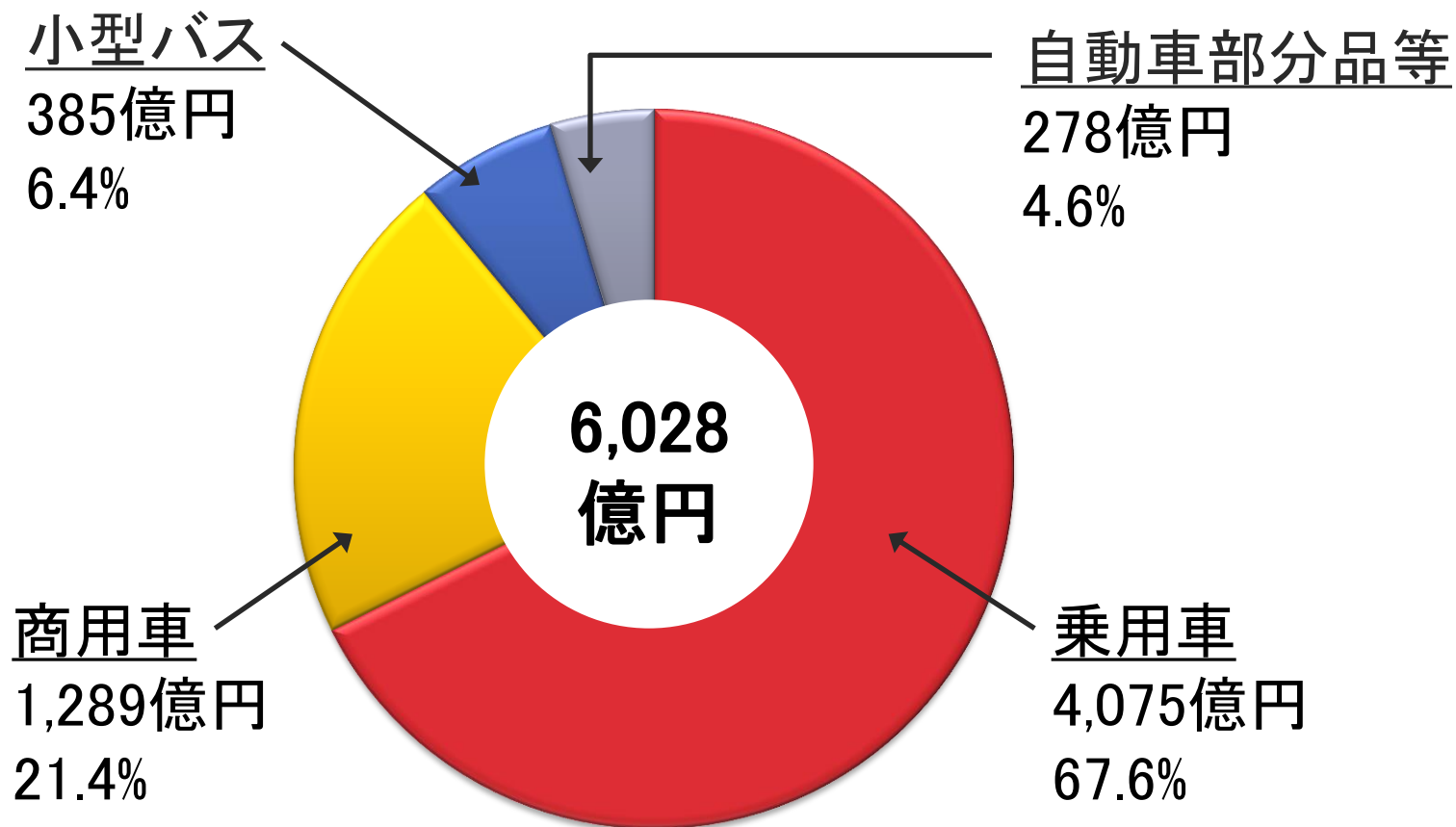


	2017年度 (2018/3)	2018年度 (2019/3)	増減額	増減率
売上高	5,586	6,028	442	7.9%
営業利益	13	77	64	485.5%
経常利益	17	81	64	365.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益(損失)	▲ 22	55	78	—

単位: 億円

2018年度 通期決算

品目別売上高構成比



2018年度 通期決算

売上台数



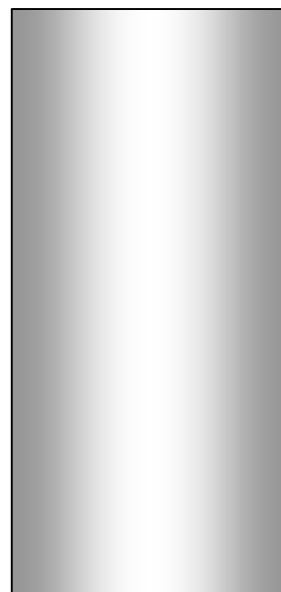
売上台数は中近東向け「パトロール(Y62)」、北米向け「インフィニティ QX80」の需要が増加したこと等により、前年同期比8.3%増の230千台

(千台)

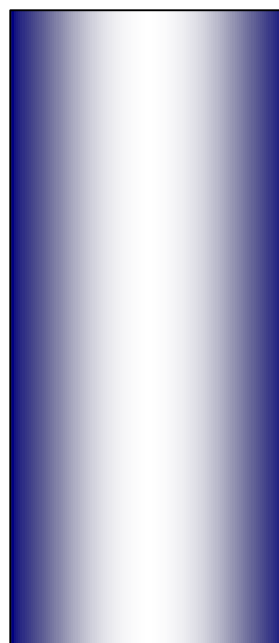
212



230



'17年度



'18年度

(千台)

	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	120	127	5.8%
商用車	73	84	14.9%
小型バス	19	19	▲0.8%
合計	212	230	8.3%

2018年度 通期決算

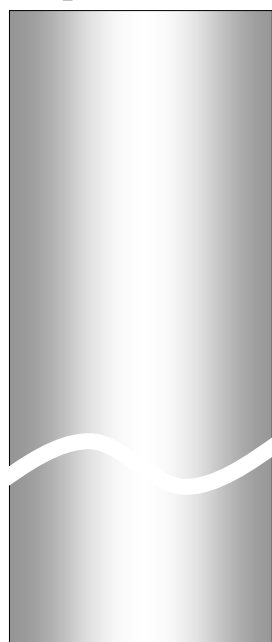
売上高



売上台数の増加等により、売上高は前年同期比7.9%増の6,028億円

(億円)

5,586 → 6,028



'17年度

'18年度

ARMADA
アルマダ



Infiniti QX80
インフィニティ QX80



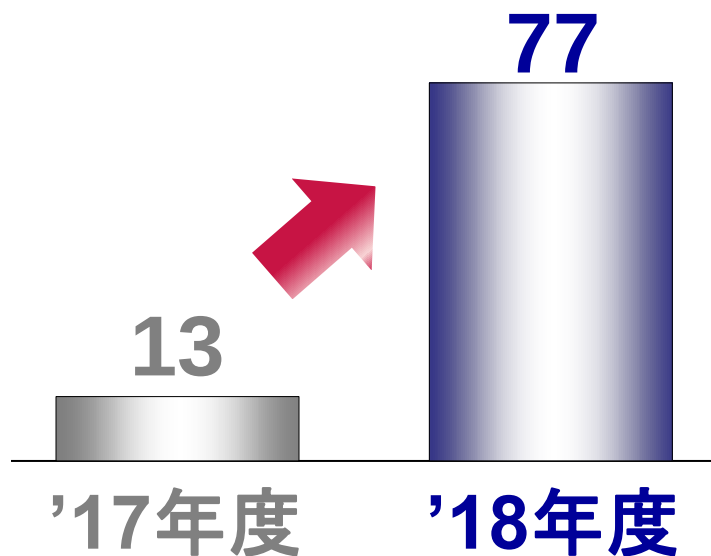
2018年度 通期決算

営業利益／経常利益

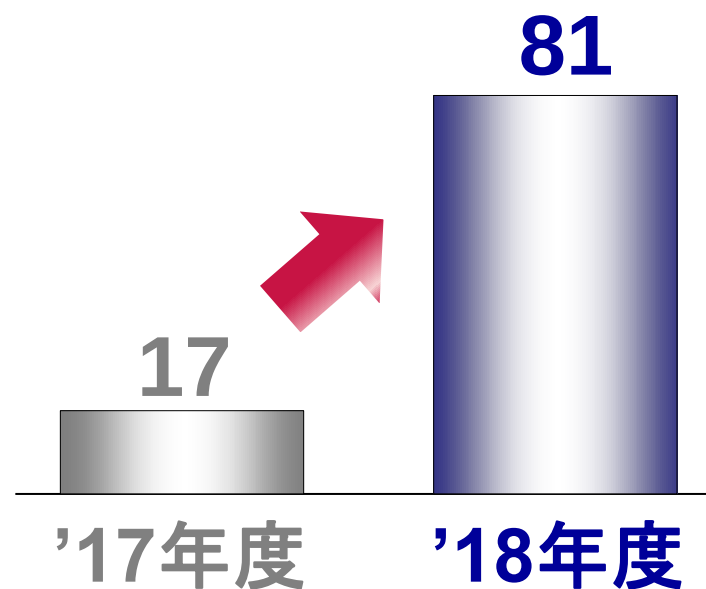


増収及び生産性改善等により営業利益／経常利益とも前年同期を大幅に上回る

営業利益 (億円)



経常利益 (億円)

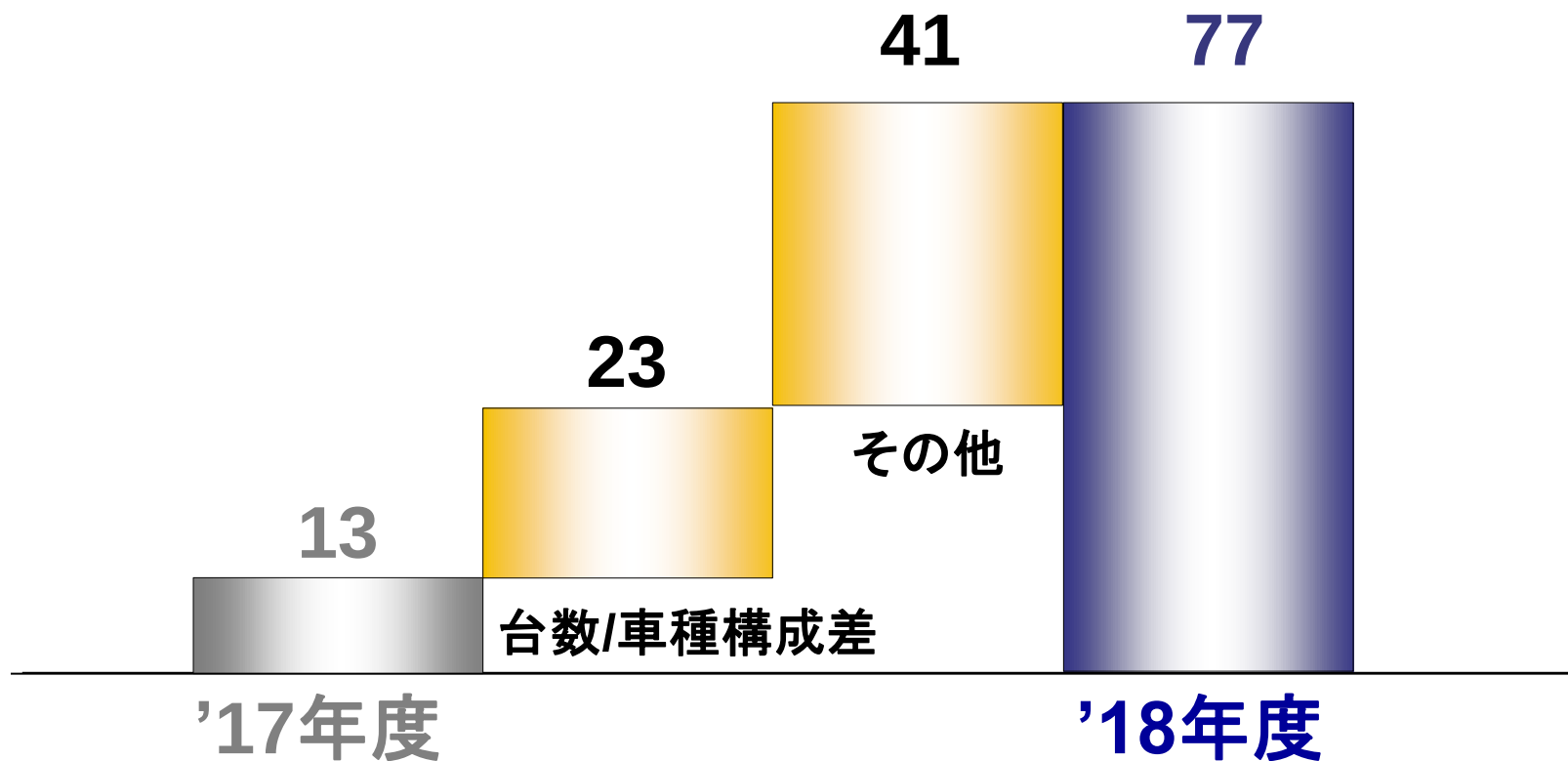


2018年度 通期決算

営業利益の増減要因



(億円)

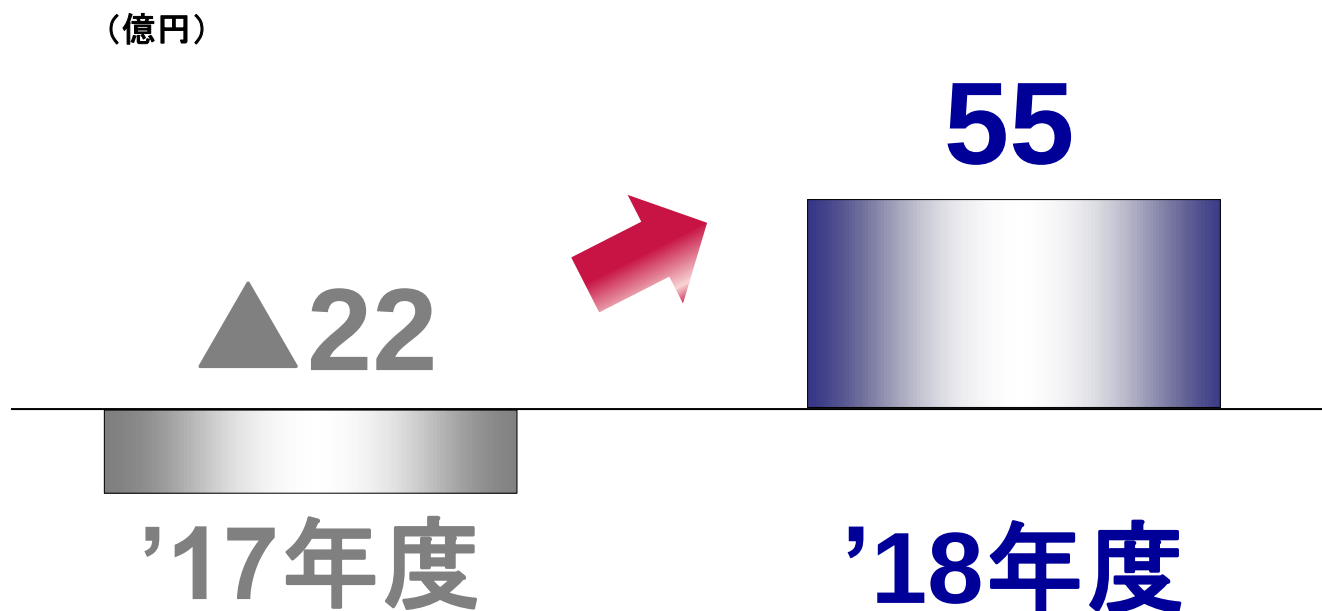


2018年度 通期決算

親会社株主に帰属する当期純利益(損益)



当期純利益は前期、特別損失に計上した「リコール関連費用」43億円の減少等により78億円改善し55億円



2019年度 連結業績見通し



2019年度の主な取り組み

<取り巻く環境>

・中近東市場の長引く景気低迷と北米需要の後退 ・先進ITS技術の適用と社会要件への対応

<主な取り組み>

[1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- Y62パトロールのGCC諸国向け20年モデルの立ち上げを予定
- 東南アジア、オセアニアでの活動をさらに拡大することにより生産台数を拡大

[2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 設備稼働率の向上による、コストの削減および品質の改善

[3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- 先進ITS技術のLCV車種への適合促進
- 人にやさしい生産ラインの実現

2019年度 業績見通し

2019年度の業績予想



2018年度は、完成検査問題の業績への影響が一定レベルに収まり、前年比を大幅に上回る結果となったが、経営環境は依然として不透明。こうした中、2019年度については減収減益を見込む

	2018年度 (実績)	2019年度 (計画)	増減額	増減率
売上高	6,028	5,016	1,012	▲16.8%
営業利益	77	70	7	▲10.1%
経常利益	81	74	7	▲9.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益(損失)	55	46	9	▲17.6%

単位:億円

株主還元

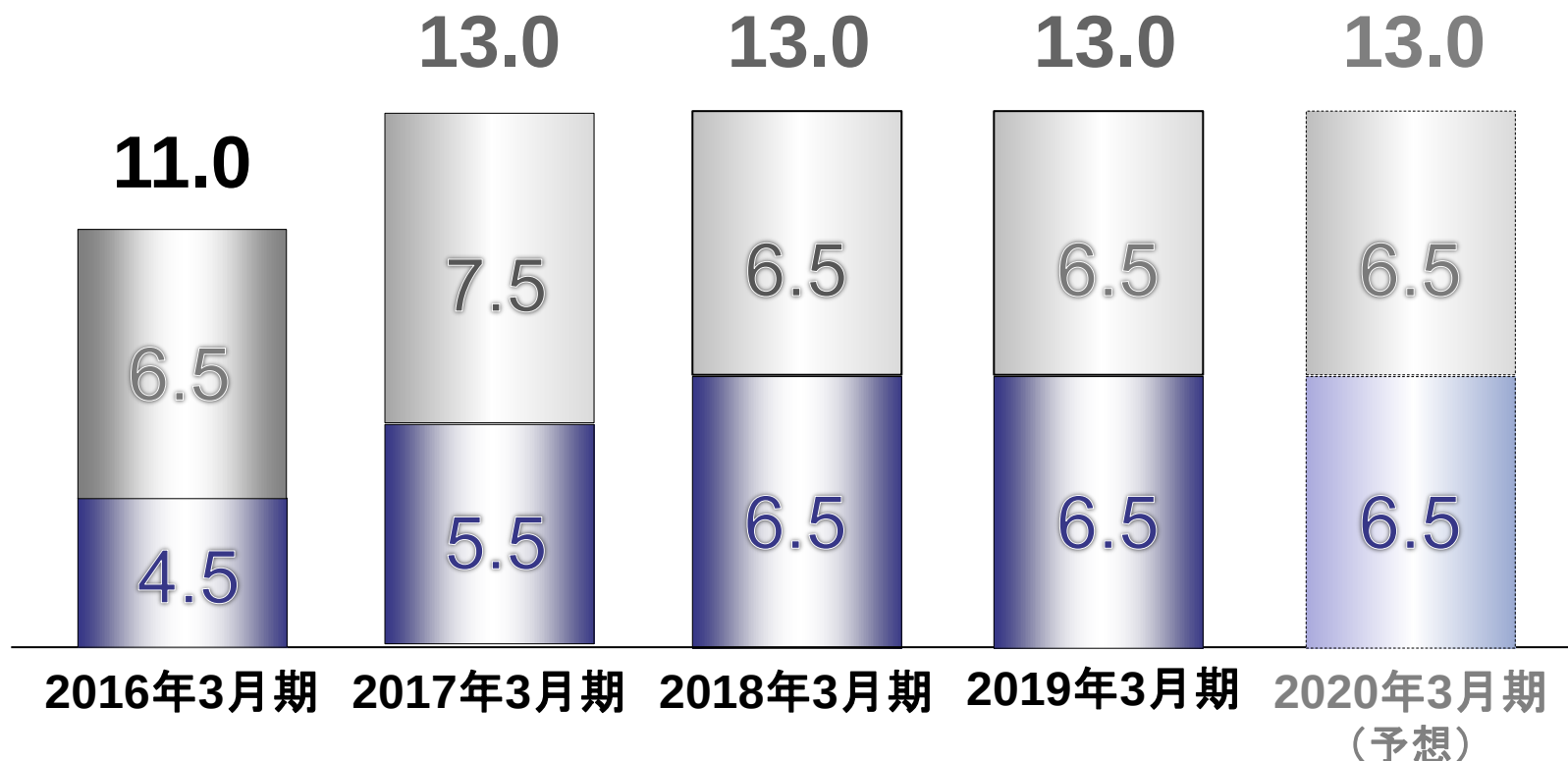
株主還元

配当金



持続的成長に向け、継続的な安定配当を実施

■ 中間配当金 ■ 期末配当金



日産車体株式会社